

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間関係論		歯科衛生士学科／3年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	勇 幸代
授 業 の 概 要				
ケア・コミュニケーションに関する基本的な考え方を十分に理解し、目的や状況に応じて適切に表現できるための知識を学び、歯科医療の現場において円滑なコミュニケーションをとることができるようにする。				
授業終了時の到達目標				
・「知識」教室での学習や自己学習で知識を理解し、実際の場面を想定してどう対処すればいいかを考えることができる。 ・「技術」教室で演習したり、身近な人との関わりの中で実際に意識しながら使って習得することができる。 ・「態度」具体的な表現や行動のもととなる考え方や発想の視点を学ぶことができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		【実務経験】 これまでの臨床経験における患者とのかかわりや、歯科医院でのチーム医療のありかたを歯科衛生士としての立場から指導する。		
時間外に必要な学修				
プリントの復習				
回	テ ー マ		内 容	
1	動機付け コミュニケーションとは		・ コミュニケーションを学ぶ理由 ・ 医療や介護におけるコミュニケーションを考える視点	
2	好感・信頼感を高めるコミュニケーション		・ 好感・信頼感を高めるコミュニケーション ・ 傾聴の重要性 ・ 敬語の知識 ・ 相手が受け入れてくれる話し方	
3	被援助者の理解と情報の交換、行動化の支援		・ 相手を否定しないで、あるがままに受け入れる ・ 苦情やクレームに対応する心構え	
4	わかりやすく説明し、同意を確認する		・ 一方的に情報を伝えるのではなく、相手に納得していただけるようにするコミュニケーション ・ あいまいな言葉の言い換え例 ・ 聞くだけではわかりにくい言葉の言い換え例	
5	主体的な選択や行動を引き出すコミュニケーション		・ コーチング・コミュニケーション	
6	チームワークとコミュニケーション		・ チームの一員として仕事を進める ・ コミュニケーションのミスやエラーを防ぐ ・ 建設的でさわやかに対話する	
7	そのらしさを大切にするコミュニケーション		・ 視聴覚言語障害を持つ被援助者とのコミュニケーション ・ 認知症の被援助者とのコミュニケーション ・ 人生の最期を迎える被援助者とのコミュニケーション	

回	テ ー マ	内 容		
8	まとめ 確認テスト	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
ケア・コミュニケーションテキスト		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会学		歯科衛生士学科／3年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	井口 和美
授 業 の 概 要				
歯科衛生士として必要な、社会学、衛生行政、社会保険、統計学の基本的な知識を学習する。				
授業終了時の到達目標				
社会学、衛生行政、社会保険、統計学の基礎知識を理解する。 国家試験に相当する問題を解くことができる。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
自ら取り組み、疑問に思ったことを調べたり質問をする。				
回	テ ー マ	内 容		
1	社会保障、社会保険	社会保障の役割と機能、社会保障給付費 社会保険の特徴と種類		
2	医療保険、高齢者医療確保法	医療保険制度の内容 高齢者医療確保法と特定健診		
3	介護保険	介護保険制度の成立 介護保険制度のしくみと給付		
4	衛生関係法	歯科衛生士法 医療法その他の法律		
5	保健医療の動向	健康状態と受療状況 医療関係者		
6	保健情報統計学	疫学の方法論 データの特性		
7	総合演習	過去問、模擬問題		
8	まとめ、試験	授業のまとめ 期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント・資料配布		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
高齢者・障がい者歯科学		歯科衛生士学科／3年	2025／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	勇 幸代
授 業 の 概 要				
スペシャルニーズを理解し、対応するときに基本となる考え方、知識と技術について学ぶ。 スペシャルニーズとする患者さんに対する口腔衛生管理および口腔機能向上訓練における歯科衛生士の役割について学習する。				
授業終了時の到達目標				
1. 障がい者・高齢者の概念が理解できる。 2. 障がい者・要介護高齢者の全身的特徴と歯科的特徴が理解できる。 3. 障がい者・高齢者における対応や口腔衛生管理の支援ができる。 4. 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割が理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士として臨床現場での介護支援専門員、訪問歯科での経験を活かし、障がい者や高齢者歯科学の講義を行う		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて指導する				
回	テ ー マ		内 容	
1	障害の概念		1. 歯科医療におけるスペシャルニーズ 2. 障害の分類 3. 生活機能に特別な支援を必要とする人のQOL 4. ノーマライゼーションとバリアフリー 5. スペシャルニーズの発生とその受容 6. 障害のある人と医療・福祉制度の仕組み	
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患		1. 神経発達症候群	
3	歯科医療で特別な支援が必要な疾患		1. 運動障害（神経・筋系疾患）	
4	歯科医療で特別な支援が必要な疾患		1. 感覚障害 2. 音声言語障害 3. 精神および行動の障害 4. その他 障害のある人への虐待	
5	障害者の歯科医療と行動調整		1. コミュニケーションの方法 2. 行動療法（行動変容法） 3. 体動のコントロール 4. 薬物的行動調整法	
6	健康支援と口腔衛生管理 リスク評価と安全管理 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割 地域における障害者歯科		1. 障害者に対する口腔健康管理 2. 医療安全管理体制 3. 障害者歯科と地域医療連携	
7	摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割		1. 摂食嚥下障害と口腔管理 2. 摂食嚥下障害と栄養管理 3. 摂食嚥下障害の評価法	
8	障害者歯科学確認テスト		障害者歯科学確認テスト	

回	テ ー マ	内 容		
9	高齢者を取りまく社会と環境	1. 高齢社会と健康 2. 高齢者の健康に関わる法制度 3. 地域包括ケアシステム 4. 高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴		
10	加齢による身体的・精神的変化と疾患	1. 加齢に伴う身体的機能の変化 2. 高齢者の精神・心理的变化 3. 高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患		
11	高齢者の状態の把握	1. 高齢者の生活機能の評価 2. 高齢者歯科と臨床検査		
12	高齢者の栄養状態 高齢者の服用状態 口腔健康管理	1. 高齢者の栄養状態 2. 高齢者の薬剤服用 3. 高齢者の口腔健康管理のための評価 4. 高齢者への口腔健康管理		
13	摂食嚥下リハビリテーション	1. 摂食嚥下の評価 2. 嚥下訓練と対応 3. 在宅における摂食嚥下リハビリテーション 4. 介護施設における摂食嚥下リハビリテーション		
14	高齢者に関わる医療と介護	1. 在宅医療の概要 2. 訪問看護と歯科の役割 3. 訪問介護と歯科の役割 4. 訪問診療における歯科医療		
15	障害者歯科・高齢者歯科総まとめ	障害者歯科・高齢者歯科総まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学【医歯薬出版株式会社】 歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学【医歯薬出版株式会社】		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科予防処置論		歯科衛生士学科／3年	2025／通年	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位（90時間）	必須	井口 和美
授 業 の 概 要				
歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識と技術を習得する。 歯周疾患予防および、治療の流れを理解し、検査・SRP・メンテナンス・SPTの総合演習を行う。 歯科衛生過程を理解し、情報収集 アセスメントなどを行い指導計画の立案を行う。				
授業終了時の到達目標				
1. これまで学習した小窩裂溝填塞法について理解し、総合実習が行える。 2. う蝕活動性試験の種類や方法、それぞれの目的について説明でき、実施できる。 2. キュレットスケーラーの操作方法や使用目的を理解し、総合実習が行える。 3. 歯科衛生士過程の学習をもとに、患者情報・検査データを読み取り歯科衛生診断が行える。 4. 歯周疾患治療における、メンテナンス・SPTの違いを説明でき実践できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士としての10年間の業務経験をもとに、臨床における歯科衛生士業務の知識・技術を教授する。		
時間外に必要な学修				
単元ごとの確認試験で6割以下の場合、補習、再テストを受ける。				
回	テ ー マ		内 容	
1～2	歯科衛生過程		歯科衛生過程の構成要素 1 歯科衛生士アセスメント 1) 情報収集 2) 情報の種類 3) 情報の解釈・分析 4) 歯科衛生士診断	
	小窩裂溝填塞Ⅲ （相互実習）		1) 小窩裂溝填塞ⅠⅡ 復習 2) 小窩裂溝填塞 相互実習 ラバーダム防湿 光重合型小窩裂溝填塞	
5	う蝕予防処置法 う蝕活動性試験		う蝕活動性試験の意義・条件・目的 評価方法 判定と分析	
6	う蝕予防処置法 う蝕活動性試験		1) RDテスト 2) CAT21	
7～9	う蝕予防計画		1) リスクに合わせた計画 2) グループワーク	
10～14	グレーシー総合実習		・33番歯～43番歯（唇側・舌側） 1) ポジショニング 2) 操作角度・操作幅・側方圧	
15～21	総合演習		1) グレーシータイプ実習 2) 超音波スケーラー 3) PMTC	
22～24	歯周病 事例 グループワーク		1) 検査結果や口腔内所見をもとにアセスメントを行う	

回	テ ー マ	内 容		
25～ 27	歯周病 事例 グループワーク	1) 症例の歯科衛生診断		
28～ 29	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 歯周組織 2) 歯肉炎・歯周炎		
30～ 31	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 付着物・沈着物		
32～ 33	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 手用スケーラー ポジショニング		
34～ 35	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 超音波スケーラー 2) エアスケーラー		
36～ 37	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 歯周基本検査 2) アタッチメントレベル		
38	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 付着歯肉幅		
39	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 歯肉縁上歯石 2) 歯肉縁下歯石		
40	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) プラーク形成過程 2) グラム陰性菌 陽性菌		
41	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) シャーピング		
42	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 歯面研磨		
43～ 44	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 全身疾患と歯周病リスク		
45	確認試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版 一般財団法人 全国歯科衛生士教育協議 会 監修		確認テスト 期末試験	10.0% 90.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科保健指導論		歯科衛生士学科／3年	2025／通年	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位（90時間）	必須	井口 和美
授 業 の 概 要				
歯科保健指導についての全般的な知識習得と専門的分野のエキスパートを目指す。 歯科保健指導分野において国家試験対策を行う。				
授業終了時の到達目標				
協働でのチーム医療、対人コミュニケーションについて理解できており、個人から集団までの指導についての応用ができる。 歯科衛生士国家試験に合格する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士として臨床現場で10年の実務経験		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する				
回	テ ー マ		内 容	
1～9	活動の場の見学準備		1. 保健センター 2. 発達障害児施設 3. 病院・介護施設	
10～11	歯科衛生過程の進め方		1. 歯科衛生士過程の概要 2. 歯科衛生過程の各構成要素	
12	歯科衛生過程の進め方 グループワーク		グループワーク 歯科衛生アセスメント 1) 情報収集 2) 情報の整理・分類 3) 情報の解釈・分析	
13	歯科衛生過程の進め方 グループワーク		歯科衛生過程の進め方 グループワーク 歯科衛生過程の進め方	
14～15	歯科衛生過程の進め方 グループワーク		グループワーク 歯科衛生計画立案 1) 目標の設定 2) 計画の立案 発表	
16～44	国家試験対策		国家試験過去問題	
45	確認テスト		確認テスト	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論		期末試験 確認テスト	70.0% 30.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科診療補助論		歯科衛生士学科／3年	2025／通年	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位（90時間）	必須	四宮 直子
授 業 の 概 要				
歯科診療における基礎知識（歯科領域に必要な臨床検査、画像検査）について 口腔機能管理について 歯科衛生士がかかわる医科疾患患者について（主な全身疾患とその対応、周術期における歯科診療の補助、歯科訪問診療における対応） 1・2年次に学習した歯科診療の補助の知識と技術の再確認 国家試験対策				
授業終了時の到達目標				
臨床検査の目的と各種検査法について説明できる。 バイタルサインの測定と評価を実施できる。 画像検査法とその補助について説明できる。 口腔内写真の撮影と管理を実施できる。 主な全身疾患の概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる。 周術期における口腔機能管理の概要を述べることができる。 周術期の病態とその治療法を説明できる。 周術期の歯科治療時の役割を説明できる。 歯科訪問診療の概要を述べることができる。 歯科訪問診療に必要な器材・薬剤と治療の流れを説明できる。 歯科訪問診療時の適切な患者対応を説明できる。 訪問診療における感染予防対策を説明できる。 訪問診療における口腔健康管理を説明できる。 口腔機能の種類とその評価方法を説明できる。 ライフステージに応じた口腔機能管理が理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士として14年の実務経験 これまでの臨床における患者との関わりやチーム医療の場面を教材として、社会のニーズに応える意識づけと歯科診療の補助の知識や技能を指導する。		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	歯科領域に必要な臨床検査		1. 臨床検査の補助の目的、役割 2. 検査の準備と患者への説明 3. 検査の種類 1) 生体検査 2) 検体検査 3) 口腔領域の検査	

回	テ ー マ	内 容
5～7	画像検査	1. エックス線写真撮影 1) 口内法エックス線撮影 2) パノラマエックス線撮影 3) 頭部エックス線規格撮影 4) 歯科用コーンビームCT (CBCT) 撮影 2. 口腔内写真撮影 3. 画像の管理
8	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	代謝・内分泌疾患 1) 糖尿病 2) 骨粗鬆症 3) 甲状腺疾患
9	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	消化器疾患 1) 胃・食道逆流症 (GERD) 2) 胃炎と胃がん 3) 胃潰瘍・十二指腸潰瘍 4) 肝炎・肝硬変
10	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	循環器疾患 1) 心疾患・不整脈 2) 高血圧・低血圧
11	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	血液疾患 1) 貧血 2) 白血病 3) 血友病
12	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	呼吸器疾患 1) 肺炎・誤嚥性肺炎・呼吸器感染症 2) 気管支喘息 3) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 4) 肺結核 5) 睡眠時無呼吸症候群 (SAS)
13	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	腎・泌尿器疾患 1) 腎疾患 2) 前立腺疾患
14	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	免疫・膠原病 1) アレルギー 2) 膠原病 (シェーグレン症候群を除く) 3) シェーグレン症候群 4) アトピー性皮膚炎

回	テ ー マ	内 容
15	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	感染症 1) ウイルス性肝炎（急性、慢性の違い） 2) カンジダ症 3) AIDS
16	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	神経系疾患 1) 脳血管疾患 2) てんかん 3) 認知症 4) 神経難病
17	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	精神疾患 1) 心身症・神経症 2) うつ病 3) 統合失調症 4) 発達障害
18	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	がん 1) がん 2) 口腔がん
19	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	産科・婦人科疾患 1) 妊娠による変化 2) 更年期障害
20	歯周病と全身の関係	歯周病が及ぼす全身への悪影響
21	周術期における口腔機能管理	周術期口腔機能管理の概要 1) 対象となる患者 2) 周術期口腔機能管理の流れ 3) 周術期における医療連携 病態の把握 1) 化学療法・放射線治療 2) 全身麻酔下で行う悪性腫瘍患者における外科療法治療時の対応 1) 周術期の歯科治療への対応 2) 専門的口腔衛生処置の実施
22	歯科訪問診療補助	歯科訪問の診療補助の概要 1) 歯科訪問診療の概要 2) 歯科訪問診療の対象者 3) 歯科訪問診療の内容 歯科訪問診療の流れ 1) 歯科訪問診療の基本的な流れ 2) ポータブルの診療セット 3) 診療に必要な器材 4) 歯科訪問診療における感染予防対策 5) 訪問先とのコミュニケーション

回	テ ー マ	内 容		
23	口腔機能管理	①口腔健康管理の意義と目的 ②口腔機能の種類 ③成長発育と口腔機能 ④口腔機能の評価 ⑤摂食嚥下障害と対応 ⑥ライフステージに対応した指導 ⑦配慮を要する者への指導		
24	まとめ	歯科領域に必要な臨床検査、画像検査 主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点 歯周病と全身の関係 周術期における口腔機能管理 歯科訪問診療補助 口腔機能管理		
25～ 27	国家試験対策	歯科診療で扱う歯科材料		
28～ 29	国家試験対策	医療安全と感染予防		
30～ 31	国家試験対策	歯科診療補助の概念 歯科診療における基礎知識		
32～ 40	国家試験対策	歯科臨床と診療補助		
41～ 45	国家試験対策（総合）	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医歯薬出版）		確認テスト	20.0%	
歯科衛生学シリーズ 歯科材料（医歯薬出版）		期末試験	80.0%	
歯科衛生学シリーズ 歯科機器（医歯薬出版）				

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
テーマ研究論		歯科衛生士学科／3年	2025／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	近藤 ちづる
授 業 の 概 要				
口腔保健の範囲の中から、自分自身で興味のある問題または必要と思われる分野を見出し研究のテーマを設定する。				
授業終了時の到達目標				
自分自身で興味のある分野をもう少し掘り下げて自ら学習することにより、卒業後もその分野において興味をもち専門職として従事することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
口腔保健の様々な文献に触れて、テーマを明確にする。				
回	テ ー マ	内 容		
1	研究テーマを考える	自分自身で興味のある問題、または必要と思われる分野を見出し、研究のテーマ案を考える。 いかに研究テーマを見出すか。		
2	テーマを絞り込む 最終的にテーマを決定する	前回、テーマを考えた中から絞り込む。		
3	研究の準備	研究に役立つ文献の検索		
4～9	プレゼンテーション資料の作成	パワーポイントの使用		
10～14	プレゼンテーション資料の作成・原稿の準備 プレゼンテーションの仕方を考える	パワーポイントの使用		
15	プレゼンテーション	パワーポイントの使用		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		期末試験 課題・レポート	90.0% 10.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
国家試験対策		歯科衛生士学科／3年	2025／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位（60時間）	必須	四宮 直子
授 業 の 概 要				
国家試験に出題される分野を系統的に学ぶ。 過去問、出題傾向を知る。 本番を想定した問題を解く。				
授業終了時の到達目標				
歯科衛生士国家試験に合格できる知識を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	歯科衛生士として14年の実務経験 これまでの臨床における患者との関わりやチーム医療の場面を教材として、社会のニーズに応える意識づけと歯科診療の補助の知識や技能を指導する。			
時間外に必要な学修				
授業内容の整理をする。 全国模試・校内試験の対策をする。				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	歯科補綴学		・ 補綴歯科治療の基礎知識 ・ 有床義歯（可撤性補綴装置） ・ 支台築造 ・ クラウン（固定性補綴装置） ・ ブリッジ（固定性補綴装置） ・ インプラント治療	
5～10	歯科矯正学		・ 歯科矯正の概要 ・ 矯正歯科治療の流れ ・ 矯正装置 ・ 矯正器具 ・ 矯正材料 ・ 患者指導 ・ MFT	
11～13	歯科臨床総論		・ 全身疾患と歯科治療 ・ 口腔内検査・口腔機能検査 ・ 画像検査 ・ 一般臨床検査	
14～15	保存修復学		・ 保存修復治療と硬組織疾患 ・ 歯の硬組織疾患の種類と検査法 ・ 前準備（防湿法、歯間分離法、歯肉圧排法、隔壁法） ・ 修復法の種類と特徴 ・ 窩洞	

回	テ ー マ	内 容		
16～ 18	歯内療法学	・ 歯髄疾患の種類と病態 ・ 根尖性歯周組織疾患の種類と病態 ・ 歯髄検査 ・ 歯髄保存療法 ・ 歯髄除去療法 ・ 根尖性歯周組織疾患の治療 ・ 根管治療と治療に用いる器具・器材 ・ 根管充填 ・ 根未完成歯の処置 ・ 外科的歯内療法 ・ 外傷歯の治療・歯内療法における安全対策		
19	確認テスト	本番を想定した問題を解く		
20～ 22	歯周療法学	・ 歯周病の種類と病態 ・ 歯周病の発現とリスクファクター ・ 歯周病と全身との関連 ・ 歯周病の疫学に用いる指数とその解釈 ・ 歯周基本治療 ・ 歯周病の抗菌療法 ・ 歯周外科治療 ・ 根分岐部病変の治療 ・ 口腔機能回復治療 ・ 歯周治療後の再評価 ・ メインテナンス、SPT		
23～ 24	口腔外科学	・ 顎、口腔領域の疾患 ・ 口腔外科治療 ・ 麻酔 ・ 全身管理とモニタリング ・ 救命救急処置		
25～ 26	小児歯科学	・ 小児歯科の概要 ・ 小児の疾病異常 ・ 小児患者の評価と対応 ・ 小児の歯科治療		
27～ 28	高齢者歯科学・障害児者歯科学	・ 高齢社会 ・ 加齢変化 ・ 高齢者の歯科治療 ・ 通院困難者への対応 ・ 高齢者の摂食嚥下とリハビリテーション ・ 障害の概念 ・ 障害の種類と歯科的特徴 ・ 障害児者の歯科治療 ・ 障害児者の摂食嚥下とリハビリテーション		
29	まとめ	まとめ		
30	確認テスト	本番を想定した問題を解く		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
国試の麗人Ⅰ（DHS歯科衛生士部） 徹底分析！年度別歯科衛生士国家試験問題 集（医歯薬出版） プリント		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅱ		歯科衛生士学科／3年	2025／通年	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	188回	8単位（375時間）	必須	
授 業 の 概 要				
学内で学んだ知識・技術・倫理（態度）を歯科医療現場で体験し、歯科医療における歯科衛生士の役割を主体的に学ぶ。 歯科衛生士としての技術を習得し、あわせて医療従事者にふさわしい人格を養成する。				
授業終了時の到達目標				
①講義、学内実習で学んだ知識に基づいて患者との人間的な関わり合いを深め、患者のニーズに関する理解力や判断力を養う。 ②患者とのコミュニケーションを通じて、歯科医療における患者の心理に対して理解を深める。 ③歯科医療における歯科衛生士の役割を理解する。 ④指導者の指導のもとに、歯科医療の流れとそれに必要な診療補助技術を習得する。 ⑤指導者の指導のもとに、歯科予防処置ならびに歯科保健指導技術を習得する。 ⑥歯科衛生士としての職業倫理・社会的役割と使命感を養い、医療人としての態度を身につける。				
3 年次 実習目標				
・医療従事者としての自覚を持つ。 ・歯科診療補助に加えて歯科予防処置、歯科保健指導ができる。 ・患者との良好なコミュニケーションがとれる。 ・他職種の仕事内容を理解し、連携を図ることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科臨床現場での、実務経験 4 年以上		
時間外に必要な学修				
実習日誌・レポートをまとめる（毎日） 自己の行動を振り返り、新たな課題を発見する				
回	テ ー マ	内 容		
1	前期臨床実習 事前オリエンテーション（実習先）	各自、実習先にアポイントメントをとり事前オリエンテーションを受ける		
2～ 188	歯科医療機関にて臨床実習	各歯科医療機関での、診療内容を理解する。（インプラント、外科治療、小児歯科、矯正歯科、一般歯科） 治療の流れを理解し、治療の準備をする。 ライフステージに応じた歯科保健指導を見学・介助する。 子どもから高齢者までの患者様との、関わり方を見学し理解する。 一日一症例について、治療の手順流れ、わからない点などを調べてレポートをする。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨地実習Ⅱ		歯科衛生士学科／3年	2025／前期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	38回	1.60単位（75時間）	必須	
授 業 の 概 要				
望ましいコミュニケーションとは何かを学び、施設における日常の健康管理や口腔管理がどのようにされているかを理解し、歯科衛生士をめざす者として、口腔衛生を通して自立支援のための援助となるよう努めることを目的とする。				
授業終了時の到達目標				
介護技術の向上（食事、入浴、移動等）について、見学し、補助ができる。 食後における口腔清掃の介助及び義歯の清掃が説明できる。 介助を必要とする人に対する、口腔衛生管理の必要性を理解し説明できる。 利用者様との適切なコミュニケーションのとり方を理解し、実施できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有				
時間外に必要な学修				
事前学習として、車いす介助、高齢者に起こる疾患、口腔の特徴などを理解して実習に臨む。				
回	テ ー マ		内 容	
1～38	前期臨床実習 事前オリエンテーション（実習先） 老健施設、福祉施設等での実習		一日を通して、高齢者のADLを理解する。 入浴、食事介助などを見学、補助を行う。 施設で行われている、口腔健康管理、口腔衛生管理について見学し、理解を深める。 食前の口腔体操を行う。	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	